

朝日カルチャーセンター 野外の自然観察

「織幡神社の社叢林とナタオレノキ」

2021.10.1 参加者 15 名

コロナ禍による緊急事態宣言が解除されるのを待って、9月17日の予定を10月1日に変更しました。

青空が映えた美しい海の色と真っ白い波涛の大きなうねりが感動的でした。例年一日に行われる宗像大社のみあれ祭では、大漁旗などで飾った漁船の大集団による海上パレードが神湊であるのですが、自粛によりパレードは中止。でも鐘崎港で、沖ノ島と大島からご神体を運ぶ御座船に同行した(らしい)2艘の漁船をながめることが出来ました。

観察地はまず防波堤越しに波しぶきがかかる道路沿いです。トベラ マサキ シャリンバイなどの低木がたくさんの実をつけ、ホソバワダンの黄色い花が咲き始め、ハチジョウススキの穂も見ごろでした。崖地のダルマガクは生息域を広げていてさぞかし見事に咲くことだろうと思えますが、残念ながらまだつぼみも出ていません。



午後は、神社裏の標高50mの佐屋形山で樹木の観察をしました。福岡県の天然記念物に指定されたイヌマキやシマモクセイ(ナタオレノキ)などの巨木。サンゴジュやアカメガシワなども大木になっています。他にも多くの樹種がある天然林です。林床はノシランが若い実を付け、キジョランもたくさん生えていてアサギマダラが卵を産み付けに絶対来るよねと話題になりました。



沖ノ島が見えるという案内板が木の枝にさげてある岬の突端からみんなで目をこらし、すぐそこに見える地の島の右手奥にかすかに島影を確認しました。

10月に入ったとはいえ、日差しは相変わらず強くて日陰を探して歩きましたが、風は爽やかに秋めいていました。

担当 薛 溝口(記)